

衆議院財務金融委員会ニュース

H26.6.3 第186回国会第12号

6月3日(火)、第12回の委員会が開かれました。

1 財政及び金融に関する件

- ・金融に関する実情調査(異次元の金融緩和の下での金融機関・機関投資家等の状況把握)のため、東京都において視察を行った委員を代表して、林田委員長から報告を聴取しました。
- ・麻生財務大臣兼金融担当大臣、岡田内閣府副大臣、古川財務副大臣及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 日本銀行総裁 黒田 東彦君
日本銀行理事 榎田 誠希君

(質疑者及び主な質疑内容)

小林 鷹之君(自民)

- ・日銀と民間エコノミストの物価見通しに差があると思うがどうか。また、潜在成長率が低下したとの見方に対する黒田日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・国債市場の流動性向上に向け何らかの対策を講じているのか伺いたい。
- ・海外投資家による国債保有割合は全体の8%であり、国債保有者層の多様化に向け海外向けIRを強化する必要があると思うがどうか。

竹内 譲君(公明)

- ・ウォール・ストリート・ジャーナルのインタビューにおいて日銀総裁は、「潜在成長率が上昇しなければ、2%のインフレ目標は達成されても、実質成長は不十分に終わる可能性がある、それは好ましいことではない」と発言しているが、この趣旨を伺いたい。また、潜在成長率を上昇させるための政策について伺いたい。
- ・日銀の成長基盤強化を支援するための資金供給の実績及び評価について伺いたい。
- ・中小企業向け貸出の増加に向け、日銀としてできることはないか伺いたい。

鷲尾 英一郎君(民主)

- ・現在、各種の経済指標が回復の兆しを見せている中で、もはや「需要不足」という認識ではないかどうか、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・日銀は2%の「物価安定の目標」を掲げているが、現在、消費者物価の前年比上昇率が1%台半ばで安定している状況ならば、今後追加的な金融緩和は必要ないという認識かどうか、黒田日銀総裁に伺いたい。

- ・長期的な供給力向上の観点から、いわゆる景気刺激的な財政出動は抑制的であるべきであり、法人実効税率の引下げなど、構造的改革を進める上でも歳出削減を図る必要性があると思うが、大臣の見解はどうか。

坂元 大輔君(維新)

- ・異次元緩和の出口局面において、買い入れた国債を日銀がどのように取り扱う予定なのか伺いたい。
- ・財政制度等審議会「財政健全化に向けた基本的考え方」(平成26年5月30日)に対する大臣の感想を伺いたい。
- ・来年度予算編成において中期財政計画を上回る規模で収支改善を図る予定はあるのか伺いたい。また、特段の理由がない限り本年度補正予算を組まないとする方針に変更はないか。

山之内 毅君(維新)

- ・地銀等の国債の保有が増加又は横ばいである現状について大臣の認識を伺いたい。
- ・近年低下している我が国の潜在成長率を今後どのように上昇させていくべきか、現状認識及び方向性について大臣に伺いたい。
- ・国家戦略特区に指定された福岡市は、法人税の実効税率を15%程度に引き下げる規制緩和策を国に求める方針である。この方針について、大臣の見解を伺いたい。

大熊 利昭君(みんな)

- ・日銀は将来発生し得る債券市場ショックの影響をどの程度だと予測しているのか、またリーマンショック以降のリスク対応はどの程度進歩しているのか。
- ・GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)に関して、5年ごとの財政検証に伴う定期的なポートフォリオ見直し

以外にも、金融危機などが発生した際などには機動的な見直しを実施するのか。

- ・GPIFのポートフォリオについて、我が国企業のガバナンス上の問題を放置したまま、日本企業の株式割合を増やしてもよいのか。また、海外ヘッジファンドのかっこうの利益確定先となってしまうおそれはないか。

佐々木 憲 昭君 (共産)

- ・年初来の株価の変動要因は、外国人投資家、とりわけヘッジファンドの動きによるものではないか。
- ・年金積立金の市場運用例として、「公的・準公的資金の運用・リスク管理等の高度化等に関する有識者会議報告書」が紹介している諸外国の例は、運用結果が基礎年金の給付水準に直接影響を及ぼさないものばかりであり、我が国の参考にはならないのではないか。
- ・年金積立金の基本ポートフォリオ見直しの軸足が株式に置かれ、運用委員会も株式投資に積極的と思われるメンバー構成に変わっている等の動きがみられることについて、大

臣の見解を伺いたい。

鈴木 克 昌君 (生活)

- ・異次元緩和による物価上昇は、円安による輸入物価の上昇を原因としたコスト・プッシュ型ではなく、実質GDPの拡大と雇用の改善を伴うダイヤモンド・プル型であると岩田日銀副総裁が講演で述べたことについて、黒田日銀総裁はどう思うか。また、異次元緩和の下で円安が物価に与えた影響について、日銀としてどう分析しているのか。
- ・日銀の国債買入れにより長期金利が低く保たれ、国債市場の流動性が低下している中では、物価上昇に伴う長期金利急騰のリスクが高まると思うが、大臣と日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・このまま日銀が国債を買い続け、インフレ下での低金利が続いた場合、国民の資産価値は目減りしてしまう。これまで長期にわたる低金利政策で国民が金利収入の機会を逸失したことを踏まえると、やはり、日銀はなるべく早く出口戦略に言及すべきではないか。